

おおたでんき News



イマココ!

太田電機が携わっている工事をご紹介します!

- 農園ガーデン空
- ・コモレビ農園
 - ・秘密の花園
 - ・テラスカフェ空
 - ・ここマルシェ



(阿久根市多田454-2 AZスーパーから奥へ約1km)

阿久根の新名所として、2年半前にオープンした「秘密の花園」は開園時から現在も常に成長・変革を続け、行くたびに新たな発見と感動があり、心満たされる癒やしの空間が作られています。私達も次々と繰り出される新たな展開を楽しみつつ、工事をさせていただいています。今はいちご狩りが最高に楽しい時期! みずみずしい採れたていちごのお持ち帰りもOK。コロナウィルス対策もきちんとしているので、ご家族でも安心です。

太田でんきの「この人」



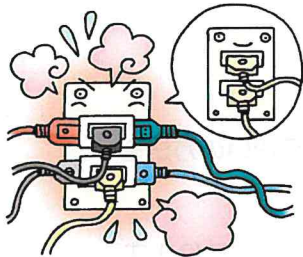
電気部 牛ノ濱 秀和

- ◆資格：第二種電気工事士
- ◆特技：弓道
高校の時、全国大会で優勝。
- ◆最近嬉しかったこと
今ひとり暮らしですが、ご近所さんと仲良くなって、野菜やおかずをいただいたり交流ができてることが嬉しい。自分の畑での野菜作りも楽しく、去年、夏野菜が沢山できたので今年も頑張るぞ〜!

昭和21年の創業以来、地域の方々への安全・快適な生活に貢献し、お客様の「笑顔」を生む『住宅設備の救急隊』として技術を磨き、信頼を積み重ね、皆様のライフラインを支えています。

電気屋さんの知恵袋

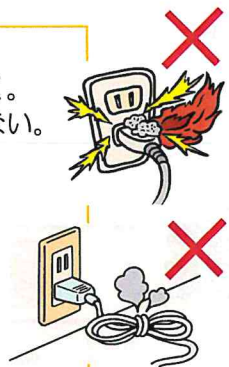
危険なタコ足配線してませんか?



一般に、たこ足配線が危険というのは、一般家庭のコンセントや電源タップの許容電流を超える電流が流れると火災や事故を起こす可能性があるため。コンセントは15A (アンペア) のものが多く、使用するコンセントに接続している数が少なくても容量を超えたら危険。逆に多くても容量を超えなければ大丈夫です。ちなみに、テレビ+パソコン+スマホ充電の3つのコンセントをさした合計は約2.7A。一方でオーブントースター+電子レンジではコンセントの数は前者より少ないですが、使用電流は22Aもあるので危険です。使用する電化製品の電流を確認・計算して使いましょう。

<安全に使うPOINT>

- (1) コンセントはしっかりさす。使い終わったら抜く。
- (2) コードは折ったりつぶしたり、引っ張ったりしない。
- (3) コードは束ねず覆わず、熱を分散させる。
- (4) コンセント周りはきれいに清掃。
(ホコリが溜まっていたり、クリップなど金属片がついたまま接続するとショートします)
- (5) 濡れた手で扱わない。(ビリビリ感電します)
- (6) 異常のある物は使わない。
(壊れたプラグやコンセントは漏電やショートの原因)



でんきと水とエアコンの (株) 太田電機工業所

阿久根市港町65番地4 TEL:0996-73-2800
 出水市大野原町304番地 TEL:0996-63-1966



～高齢者や障がい者(児)のためのほっと笑顔工房～

ケア・リフォーム暖家だんけ

ReLife り・らいふ通信

～暮らし・生活・住環境を見つめなおして～

No. 53 * 2020年4月

(株)太田電機工業所
 ケア・リフォーム事業部
 (Tel.0996-73-2073)

鹿児島県指定
 福祉用具貸与・特定福祉用具販売事業所
 介護保険事業所番号4670600396

経験のないことは不安です。 知らないと心配です。

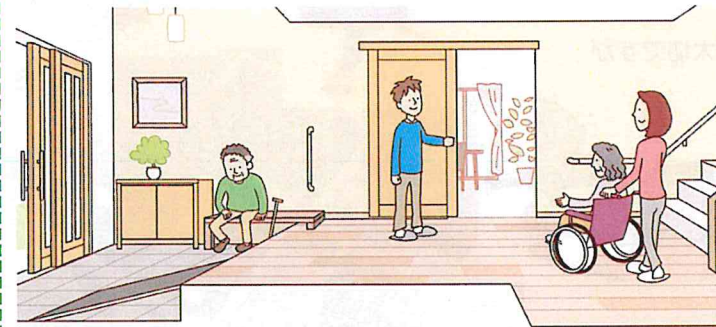
先日、初めてのお客様が店舗に来られました。暖家のホームページを見て、相談をしたいと来店されたのです。

ご相談は高齢のご両親のこと。二人暮らしで、今は何とか元気にやっているけれど、今後どんなことに気をつけたいのか。まずは浴室で転ばないかが不安で・・・また介護保険のことも教えてほしい、と不安げな表情でした。娘さん達は遠方にお住まいで、いつも助けられるわけではないし心配だけれども何から手を付けたいのかかわらないと。

経験のないことは不安です。
 知らないことは心配ですし、想像できず不安は増長します。
 誰でもそうです。
 今回の新型コロナウイルスの状況と同じです。

親の介護は、感情的にも体力的にも、自分ひとりで頑張るには限界があります。思いや精神力だけで越えられるものではないので、長丁場になることを想定して不安を解消してくれるサポートや協力体制が必要です。

- まず今回の場合、自分でできること
- ・介護や福祉に関する最新情報を得ること
 - ・兄弟姉妹で助け合う方法やサイクルを作ること
 - ・ご近所や地区の方々の方に協力をもらうこと
 - ・行政、地域包括支援センターに相談すること など、



変化していくご両親の状態にあわせて生活スタイルの変更や、状況に応じいろいろな方法をひとつひとつ試すことも大切です。その際にはご本人の意見を尊重して進めることが重要です。現在お元気で生活しておられるのであればまず「予防」から、とお伝えしました。

その予防とは? 続きは次ページへ ⇒ ⇒ ⇒

介護保険住宅改修・福祉用具機器のレンタル・販売はおまかせください!



「親の家のかたづけ」と「転倒予防」

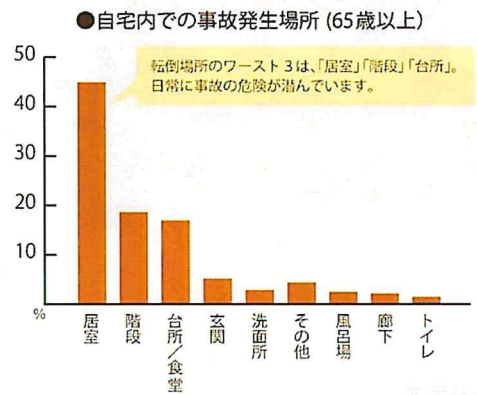
<家の中での転倒予防>

高齢者にとって家庭内事故予防や転倒予防、病気や認知症の予防、交通災害予防など生活のすべてに「予防」は必要といっても過言ではないでしょう。今回は、家の中での転倒予防についてお話しします。

まず第一に、ご本人の「生活動線」の確認をすることです。玄関ー居間ー台所ートイレ洗面所ー浴室ー廊下ー寝室ーベランダなど、日々の移動で「不安」「辛い」と感じる場所をチェックしてみましょう。**危険はそこにあります。**



親の介護に向かう際、まず「整理収納」の視点から始めることをお勧めします。どれだけのモノを持っているかを知る。必要なモノとそうでないものに分ける。必要なものをどこに収納するか。必要でないものをどうするか。それだけです。



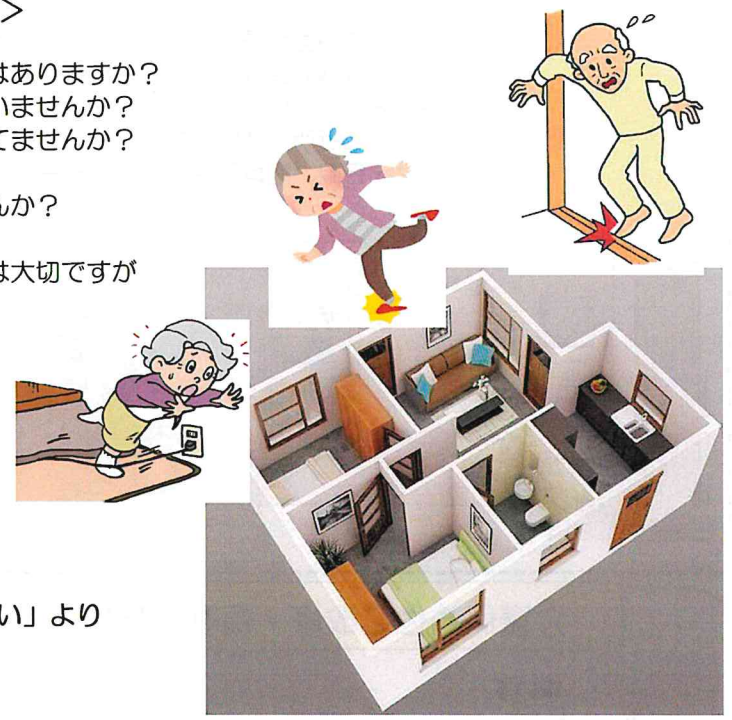
実は筆者の母も、戦後のモノのない時代に育ったので不要なものを捨てられず、沢山のモノを押入れや倉庫に詰め込んでいました。「こんな使わないから捨てなさいよ」「もうちょっと片付けたら?」実家に行くたびに言い続け、そのたびに喧嘩になりました。言葉の選び方は大切です。身近な立場であるほど言葉は慎重に、相手が快く改善したくなる言葉かけが必要です。

高齢になるとどうしても、手の届くところにいろんなモノを積み上げたり並べたり、長年の蓄積が押入れやタンスだけでなく、部屋の中に溢れてしまうことも多いですね。自分でもどうしていいかわからないのです。また、脱いだ衣類、買い物してきた袋などをつい床に置いてしまい、それにつまづいて転んだり骨折することも。**高齢者の怪我はほとんどが、家庭内で起こっています。**足腰の筋力低下や反応力の低下が原因ですが、骨折が原因で入院や寝たきりになり、介護が必要になる事例が増えています。

出典: 国民生活センター「医療機関ネットワーク事業からみた家庭内事故-高齢者編-」(平成25年3月公表)

<家の中の”とうせんぼ・回り道”をなくす>

トイレや玄関などに掴まる場所、体を支えるところがありますか? 家電の配線や延長コードが足元を”とうせんぼ”していませんか? 家具の配置が動線を妨げたり、”回り道”させたりしていませんか? 浴室、廊下などの床は滑りやすくないですか? カーペットの端が浮いてつまづきやすくなっていませんか?



基本的に毎日の軽度な運動や、低栄養にならない食事は大切ですが上記のようなちょっとしたことを改善するだけで

- ・怪我から自分の身を守る
- ・住み慣れた家に長く暮らせる
- ・毎日を心地よく生きること

につながります。

<まとめ>

- ・床にモノを置かない
- ・とうせんぼ・回り道は怪我の元
- ・モノが溢れていたなら「片づけなさい」「捨てなさい」より「一緒に見直そう」「手助けしようか」の一言を

住まいが変われば 生き方が変わる!

ケア・リフォーム 暖家だんけ
 (電話 0996-73-2073)
<http://danke-care.com/>

「生きることは喜び!」につながる、安全・安心・快適な日々の暮らしを創ります。支えます。

みんなの認知症介護をハッピーに♪

暖家シリーズ 第34回

認知症の人の新型コロナウイルス対策

「もういい加減にしてください!」
 「私をこんなところに閉じ込めて!」

インフルエンザにかかったAさん。他の人に感染したら困るので部屋にずっといてもらうことに。本人にも説明して、説明した時は納得して「わかりました。部屋にいますね」そう言っていたのに、10分後には、上記のように怒りながら部屋から出てきました。部屋に戻ってもらおうとして声をかけるも閉じ込められた、警察に言う、とすごい剣幕で怒っています。

認知症になると、記憶の障害や、理解力の障害によりインフルエンザのために個室で過ごす必要性を忘れたり理解できなくなったりします。

この時は、インフルエンザでしたが、感染経路などから言うと**新型コロナウイルス**でも同じことです。部屋や家から出たり外出して、感染源となってしまう可能性があります。

インフルエンザや風邪、新型コロナウイルスなどの感染症を予防するには、免疫力を上げることと、**手洗いやうがいを徹底**することです。

この、手洗い・うがいですが、理解力・記憶力が障害されている認知症の人にはどのようにアプローチしたらいいでしょうか。



外出から帰った後、「手を洗って、うがいをしなせね」

この声かけだけで、感染予防に有効な手洗い・うがいの行為は難しいと思います。なぜなら、手洗い・うがいのやり方を忘れているかもしれません。やり方を憶えていても、感染予防に有効な方法でできないことも。(感染予防の必要性がわからず)あとでやろうと思って忘れてしまったり、面倒だからいいやと思うかもしれません。

ですから、認知症の人の感染予防対策のポイントとしては声をかけるだけではなく、**一緒に行動**しましょう。

その時に隣で感染予防に有効な手洗い・うがいの方法を説明しながら一緒に行う。そうすることで、あなたは「行動を導いてくれるいい人」になります。ついでに自分の感染予防にもなりますしね^^

今は新型コロナウイルスのことで社会全体が暗いムードですが、知識をつけ、不必要に恐れず、乗り越えていきましょう。



推奨される手洗い方法

認知症になっても大丈夫。 認知症があっても大丈夫。



「どんより介護からハッピー介護へ もっと楽になる考え方を伝えたい!」

林 炎子 (もえこ) さん
 (日本高齢者アタッチメント協会 代表) 看護師で認知症介護歴32年の林炎子さんは、認知症介護に携わってきた経験や知識を一人でも多くの方に知ってほしいと、「目からうろこの認知症セミナー」を開催されています。

<http://ninchishoucare.jp/blog/>

「みんなの認知症介護をハッピーに」は、林炎子さん公式ブログ「家族で支える認知症ケア」より抜粋、参照しています。